令和6年度　大田区立嶺町小学校　自己評価　報告書

令和7年3月14日

○ 本校の概要

○学級数・児童数・教員数　：27学級、児童数827名（令和5年9月5日現在）、教員数42名（校長1名、副校長1名、主幹教諭2名、主任教諭15名、教諭21名、養護教諭2名）.
○今年度の目指す学校像　「よく学びよく遊ぶ　みんながいきいきしている学校」
○校内研究　：研究主題「問い続け、学び続ける児童の育成　～文学的な文章の読む活動を通して～」
○特色ある教育活動　：多摩川流域等の地域学習　・縦割り班、児童会等、異年齢交流活動の充実　・外遊び・運動時間の確保と計画的体力向上策
○家庭・地域との連携　：PTO・地域と連携した行事の実施「夏のキラキラのスクール、夏休み子どもまつり等」　・スクールサポートみねまちとの連携「みねみん、みねっ子スクール等」　・学校運営協議会との連携

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
生涯学習の基礎を培い、未来の社会を創造する子供を育成します。	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 91.2%	全国学力・学習状況調査（6年生）児童質問紙「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか」の設問に、肯定的回答をした児童の割合が全国平均以上	4.83.5%以上 3.83.5%未満 3 83.4% 2.80%未満 1.70%未満	全国学力・学習状況調査（6年生）児童質問紙「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか」の設問に、肯定的回答をした児童の割合 全国の平均　83. 5% 昨年度本校　72. 9% **今年度本校　83. 4%** 本校では1年生から6年生まで継続して「多摩川活動」を行うなど、地域に出て学ぶ機会は充実していると、しかし生まられた課題に受け身で取り組むことが多く、児童一人ひとりに課題意識を持たせることは十分とは言えなかった。次年度は大田区の教育目標「おおたの未来づくり」を校内研究に位置づけ、問題解決的な学びに地域とともに取り組み、地域のために何ができるかを合うことと、考えることのできる児童の育成に取り組んでいく。	A B C D	7 1	・新たな取り組みに尽力いただき感謝しております。 ・展覧会の「ごども芸員」などが学業にふさわしくと課題をあるとして児童が主体性をもって、取り組む姿勢を多く見受けいただいており、本目標の向上に向けて継続的に取り組んでいただいていると の現場です。 ・地域のために何ができるかではなく、地域のために何をやるかが大事だことだと思います。 ・全国学力・学習状況調査（4年生）児童質問紙「地域や社会をよりよくするために何かしてみたい思いますか」の設問に、肯定的回答が増えたのはすばらしいことだと思います。 「おおたの未来づくりでは、自分たちの地域についてより明確さをし、課題を見つけ「地域のために できることを学校ごとに考えていくことができると思うのこどもたちの日々の地域へのかかわり方も見えると思います。先生方（地域と直接かかわりの少ない方も多いと思うので）連携方も大事になると思います。多摩川活動はその大切な柱になると思うので継続しておけます。 ・成果指標が昨年度より大幅に向上しているとは、喜ん評価できると思います。次年度以降も引き続き、地域の特色を生かした教育活動が実践されることを期待しています。 ・多摩川に近く、川に入れるという恵まれた環境を生かした学習は大変すばらしい。ただ、野外活動は情手不得手があるので「展覧会など地域へのアピールは必ずと進めて欲しい。「おおたの未来づくり」が楽しみです。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 97.3%						
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 94.6%						
お世話目標を持つ思いやりのある人材を育成します。	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 88.8%	学校評価保護者アンケート「学校は、こどもたちの人権を尊重して指導している」の設問に、肯定的回答をした保護者の割合	4.95%以上 3.83.5%未満 3 90.7% 2.80%未満 1.70%未満	学校評価保護者アンケート「学校は、こどもたちの人権を尊重して指導している」の設問に、肯定的回答をした保護者の割合 昨年度本校　97. 5% **今年度本校　90. 7%** 「自分国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。」の項目について、教員アンケートでは、100%の教員が「おおむねできた」と回答している。しかし、保護者アンケートの結果は6. 6ポイント下がっている。次年度は人権週間以外でも人権について の取組を広く保護者地域に伝えていく。「人権教育の資料をもっと多数紹介の指導では、その具体や内容が分かりや保護者には伝わっていないことがある。学校では全教育活動を通じて人権に配慮した取組をしていこうと考え、「まなびポケット」の連絡掲載を活用するなどして、広報していく。	A B C D	5 2 1	・昨年の世界情勢において、アメリカではトランプ政権が復活し、DEI政策が廃止が起きるなど、これまでの少数マイノリティ集団から自国主義やマイノリティ保護への反発・反動も起きています。日本には「公正さ」を尊重する傾向があるとは思いませんが、こどもたちには、人種差別や社会保障・マイノリティの方が へ高く意識をして育ってもらいたい考えています。 ・羽田空港を拠点としても大田区の地域性を生かしてもっと英語力を身に付けて欲しい。 ・保護者のポイントが下がったことに関して私なりに考えてみました。コロナ禍が終わり本格的に外国の方が多くお見えされた分「留学する学生や海外に仕事で行く機会も増えていて、その中でコロナ禍で高たし来た「世界とつながる人材を育成」という課題が学校だけでなく家庭や社会の生活でも体験できるように、シフトされていったのではないかと思います。私が思る限り、があれその異文化交流や英語教育、日本の伝統を知り、お互いをりかいすることは十分に果たせていると思います。 ・野外活動で見かける先生方は恐竜ちょうな様やかに指導している。 ・人権教育についての取り組みや、今後の改善策については概ね適切であると考えます。ただ、関ずている目標に対する成果指標については、人権教育の視点だけでなく、より広い視点からの成果指標の設定をおくらることが望ましいと感じます。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 89.8%						
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 94.2%						
一人一人の個性を大切にし、基礎・基本の定着を図り、豊かな心と健やかな体を育成します。	児童・生徒が豊かな人生を生きていくための基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 91.0%	全国学力・学習状況調査（6年生）児童質問紙「自分には、よいところがあると思いますか」の設問に、肯定的回答をした児童の割合が全国平均以上	4.84.1%以上 3.84.1%未満 4 92.9% 2.80%未満 1.70%未満	全国学力・学習状況調査（6年生）児童質問紙「自分には、よいところがあると思いますか」の設問に、肯定的回答をした児童の割合 全国の平均　84% 昨年度本校　84. 1% **今年度本校　92. 9%** （良くできる　48% どちらかといえば良くできる　44. 9%） 全国学力・学習状況調査（6年生）児童質問紙「自分には、よいところがあると思いますか」の設問に、肯定的回答をした児童の割合、経年で比較しても、年々上がっている。一昨年度が72%、昨年度が84. 1%、今年度が92. 9%となり、毎年10ポイント上がっ ている。教員による「褒める活動」が浸透し、行事だけでなく日々の教育活動において、様々「褒める」ことを授業、機会を設えて声掛けがっていることが ポイント上昇につながっていると考える。また、その内容を各家庭と共有することで、ご家庭 からも声掛けしていただいている状況 が児童一人一人の自信につながっている。今年度よりコミュニティスクールになった強みを生かして、次年度は地域から多くを様々な場面でお声掛 していただけるようにしていきたい。	A B C D	7 1	・素晴らしい結果であると思います。特に日本では、大人になっても「自己表現が苦手」「人前で話せない」といいたことはビジネスでも課題になっているので、こどもたちが自己肯定感 強力感をもって自信をもてるように なっていることは、ポジティブな成長に向けての材料になると思います。 ・褒めて伸ばすことは良いことだと思います。こどもたちの自 信に もつながり動力向上につながると思います。 ・素晴らしい結果だと思います。一方で気になることは児童アンケート12「自分には良いところがある」でD・Bを選んだ子 がいる事いることです。意識に考えてもクラスに良人はすう 多えていることもがいるということは注目すべき点だと思います。A・B年度にこどもは家庭でも学校でも居場所がある 使められる経験がある。一方でD・Dを選んだこどもは雰ぶられ、 ひどこかが安定されていないのもしれないと思う。より多くの人 がこどもたちに関わり様々な視点で良さを発見してあげることが大切だと思います。そのためには保護者や教師、関わ る大人のいの中の安定と自信が必要です。 ・自己肯定感が多いことは素晴らしい。豊める活動を続けてください。 ・先生方も育ち方って、自己肯定感の向上は表現に大切であると思いますが、成長指標の結果が年々向上していることは、大変好ましいことだと思います。先生方からこどもたちへ の日々の関わりが実を結んでいると思います。 ・ポイント上がり上昇していることは本当にすごいことだと思います。「褒める活動」をすることで注意すべき点も解く良き様 つ 気になる。あらに家庭との連携もしっかりとこどもたちの自己肯定感を伸ばしている結果につながっていると思います。家庭と学校が同じ方向を向くことが大切であると思います。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 91.0%						
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 97.2%						
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 97.2%						
学び続ける教師力を向上させます。	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 97.3%	全国学力・学習状況調査（6年生）児童質問紙「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の設問に、肯定的回答をした児童の割合が全国平均以上	4.87.1%以上 3.87.1%未満 4 92.9% 2.80%未満 1.70%未満	全国学力・学習状況調査（6年生）児童質問紙「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の設問に、肯定的回答をした児童の割合 全国の平均　89. 9% 昨年度本校　85. 5% **今年度本校　92. 9%** （当てはまる　54. 3% どちらかといえば当てはまる　38. 6%） 全国学力・学習状況調査（6年生）児童質問紙「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の設問に、肯定的回答をした児童の割合は昨年度の本校の結果。全国の平均を超えても高いものとなっている。教職員アンケートでも「毎朝教頭先生と自発的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。」が「毎月性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている」の2項目は7. 7%と高い水準だが、「教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。」は83. 3%に留まっている。次年度はより教職員のウェルビ ングが生まれるよう、職場環境の	A B C D	7 1	・仕事というものはどんな職業でも多少はつらい場合があるものだと思いますが、特に小学校の教員は負担が大きいところも多くあるかと思います。何かを教わりたくなったりもっと楽しい 気持ちになったりなれるように保護者としてできることはないか、考えます。 ・先生方が一人一人の児童と向き合いながら指導するために は、先生方の働く環境は改善され、心のゆとりを持てることが 市可欠であると思います。引き続き、魅力的な職場環境の実 現を目指すことを期待しています。 ・先生が一生懸命取り組んでくださっていることからこどもたちの日々真摯感が高いようだと思います。一方で先生自 身は無理をしている部分もあるようにうかがえると思います。学 校も組織なので一人の人に負担が偏らないように仕事分担する ことや休日一斉閉鎖で先生方が安定的に勤務できることがとても大切だと思います。 ・教員の授業力向上には職場環境が必要です。こどもたちも教師も心のゆとりが大切です。 ・声が家のこどもたちの話しを聞いていると「先生は好きだけど、怒ると怖い」と言っています。しっかりとメリハリの効いた授業の展開や指導をしてくれているのだと思います。子供たちの信頼を確かがらしっかり学習の継続ほかっていくことは、心がけあると思います。いつもニコニコ、先生ではいられないかもしれませんが、大変だと思います。本校業から先生方の思いはしっかりこどもたちに伝わっていると感じました。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 97.3%						
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4.「おおむねできている」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできている」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできている」と回答した。 1.「おおむねできている」と回答した教員が60%未満であった。	3 83.3%						
自分の学びを深めます。	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	全国学力・学習状況調査（6年生）児童質問紙「困りごとや不安がある時に、先生や学校には、大人にいつでも相談できますか」の設問に肯定的回答をした児童の割合が全国平均以上	4.88.5%以上 3.88.5%未満 3 66.9% 2.80%未満 1.70%未満	全国学力・学習状況調査（6年生）児童質問紙「困りごとや不安がある時に、先生や学校には、大人にいつでも相談できますか」の設問に肯定的回答をした児童の割合 全国の平均　67. 1% **今年度本校　66. 9%** 教員アンケートについては、3項目とも100%「おおむねできた」と回答している。本校の全般論義は、「インクルーシブ教育を目指し、学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。」が、「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	A B C D	3 4 1	・深刻な問題ほど言い出せないという状況は大人・こども関わらずあるかと思います。ICTの使用による、匿名機能で、こどもたちが「困りごと」を相談できます。 ・先生や学校にいる大人だけでなく、児童や地域の大人とも気軽に相談できるような環境作りが必要だと思います。 ・先生とこどもたちの意識の差が大きくなっています。先生も静かで問題のなさそうな児童に対してはなかなか時間がとれないのではないかと思います。タブレットを活用して何かあったらいつでも連絡してきていいよなどという受け皿がありますが言いたくても相談できない、自分から発信が苦手な児童にも声をかけてあげられるのではないかと思います。定期的にいじめアンケートなどだけでなく、身近な大人にいつでも声をかけれる体制づくりができるとよ期待します。 ・先生方の側からは、児童からの相談を受け入れる体制になっているようですが、児童評価からは、それが一部の児童に伝わっていないことが読み取れます。多くの児童に伝わるように、メッセージの発信の仕方を工夫していただければと思います。 ・学校生活を見ていると先生はいつもげしくされている。また下校も早くないといけないなので、本当に困っているときは声をかけずらいと思います。児童からの声を聞く場を何かつ等あってもいいのかなとも思います。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4						
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4						
安全・安心で教育環境をつくります。	学校施設について、「ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 97.3%	学校評価保護者アンケート「学校は、タブレット活用等、ICT教育に取組んでいる」の設問に、肯定的回答をした保護者の割合	4.95%以上 3.95%未満 3 92.1% 2.80%未満 1.70%未満	学校評価保護者アンケート「学校は、タブレット活用等、ICT教育に取組んでいる」の設問に、肯定的回答をした保護者の割合 昨年度本校　96. 2% **今年度本校　92. 1%** 昨年度より、ポイント下がってしまったが、教職員のICT研修会などにより、本年度も引同数を増やし、毎月一回のペースで行っている。研修内容をタブレットの使い方だけではなく、タブレットを活用して問題解決的な学習を行う方法にまなびと、さ ス アップをしている。今後ICT効果のあるタブレットを活用している場面を保護者に「まなびポケット」の「保護者チャンネル」等で発信していき、理解を深められるようにしていく。	A B C D	7 1	・無線接続等もタブレットで共有したりは活用方法が増えてきている反面、保護者としては、タブレットを使って何をしているのかわからない状態なのではないでしょうか。「こんなアプリでこんなことができる」等の情報発信は必要だと思います。 ・ICTの効果的な活用方法については、年を追うごとに向上していると思います。ICTの教育目標も大切ではありますが、先生方のスキル向上のための施策を安心や後とも継続していって欲しいと思います。 ・ICTは家庭環境の役割も大きいと、ただ、学校公開などで見る限りには年を追のスタイルを使った要素などよかったです。 ・ただ、インターネットが一部で使えない場所になっている のは注意が必要です。 ・タブレット活用については、保護者が思っている以上に活用していたいることと子供たちの金銭で感じます。毎月の お便りでチデジタル活用自記」のようなHPのTOC活用例などご紹介していただくことはできないでしょうか。
		②避難訓練や安全指導などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4						
学地域の特色を活かし、地域の協働による教育活動を推進します。	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を活かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4.「おおむねできた」と全教員が回答した。 3.80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2.60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1.「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 98.2%	学校評価保護者アンケート「学校は、地域やPTOと連携してこどもを育てている」の設問に、肯定的回答をした保護者の割合	4.95%以上 3.95%未満 4 98.2% 2.80%未満 1.80%未満	学校評価保護者アンケート「学校は、地域やPTOと連携してこどもを育てている」の設問に、肯定的回答をした保護者の割合 昨年度本校　98. 9% **今年度本校　98. 2%** 今年度も昨年度の数値とほとんど変わらず、多くの保護者の皆様から 肯定的に意見をいただいたことがPTOを通じて、今年度は、運動会においてPTOによるリモート配信など、動たなはみも取り組めて、学校とPTOの連携を保護者にしめすことができた。また、今年度よりコミュニティスクールも発足されたことから、次年度はより、地域の皆様のお力をかり、地域の特色を最大限生かして、児童の育成に取り組んでいきたい。	A B C D	7 1	・PTOの活動はどうできるかがとる活動なので、やってもやらなくても良い活動。その中でこの数年は素晴らしいと思います。運動会にも足を運ばせていただいたり、展覧会にも行ったりしましたが、やはり働かのは人数が多くそして保護者も学校に協力的なすばらしい地域だと思います。これからの地域を今までの先輩が創り上げてくださったと思うと今後も地域の力を使って学校を更より上げていく必要があると思います。 ・地域として頑大限の努力は惜しみません。地域の行事にもこどもたちがとけてなく、教師の参加も歓迎します。 ・運動会のZOOM配信のアイデアア等ありがとうございました。大変好評でしたので、コロナ取り組みはいろいろな学校で広がっていと良いですね。子供たちの主体性、多様性、地域未来に繋がる活動を続けていきたいと思います。 ・コミュニティスクールも発足したばかりで、まだまだ地中模索の状態ですが、引き続き学校と協力して、地域のこどもたちの成長のために、微力ながら支援できればと思います。 ・これからの時代は厳特がどんどん進められていくので、学校としても様と同じではなく「働き方の価値を生み出していけると支えがいがさらに上がります。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載す